

平成28年10月28日

第3回 岡山市総合教育会議資料

平成28年8月に文部科学省が発表した、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」の資料に基づいて、本資料を作成しています。

1. 学習指導要領改訂の方向性

3

2030年の社会＝複雑で予測困難な社会

人工知能(AI)の飛躍的進化
グローバル化の進展

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る

社会に開かれた教育課程

※子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く(キャシー・デビッドソン氏(ニューヨーク市立大学大学院センター教授)との予測や、今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い(マイケル・オズボーン氏(オックスフォード大学准教授))などの予測がある。

2. 「社会に開かれた」とは

**現在において、
学校と社会が連携・協働して子供たちを育てる。**

「教委や校長がリード、地域の人に教育活動の一部を委託」というイメージ。

「開かれた学校づくり」と共通。
学校開放、地域資源の活用、放課後・土曜教室、コミュニケーション・スクール等。

**未来に向けて、
社会状況が変化してもたくましく生きていいくことができる
資質・能力を養う。**

1コマ1コマの授業が変わらなければならぬ。
社会の変化のスピードに現在の学校教育が対応できにくくなっている。

3. 社会に開かれた教育課程を構成する3+1

5

教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ 小学校の外国語教育の教科化
- ◆ プログラミング的思考

何を学ぶか

現在の学習指導要領はこれが中心

カリキュラム・
マネジメント

何ができるようになるか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

- ◆ 知識・技能
- ◆ 思考力・判断力・表現力
- ◆ 学びに向かう力・人間性

「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習過程の改善

- ◆ **主体的な学び**
- ◆ **対話的な学び**
- ◆ **深い学び**

4. 何ができるようになるか～資質・能力3つの柱～

6

己の感情や行動を統制する能力
自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力
リーダーシップ
チームワーク
感性など

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性
の涵養

生きて働く
知識・技能
の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成

何を知っているか
何ができるか
各教科等に関する個別の知識や技能など

知っていること・できることをどう使うか
問題の発見・定義・解決
他者と共有しながら行う協働的問題解決

5. 「資質・能力」の具体化の議論

7

各教科等を学ぶ意義、各教科等において育む資質・能力

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力

言語能力 情報活用能力 クリティカル・シンキング
問題発見・解決力 統計的な分析力・判断力

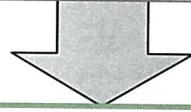
現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

健康・安全・食に関する力 主権者として求められる力
新たな価値を生み出す豊かな創造性 多様性の尊重
我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重し未来を描く力
地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
自然環境や資源の有限性の中でよりよい社会をつくる力
オリンピック・パラリンピックを契機に豊かなスポーツライフを実現する力

6. ビのようちに学ぶかへ3つの学び～

8

視点からの学習過程の改善



主体的な学び

学ぶことに興味・関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付け、振り返りながら粘り強く取り組む

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話や先哲の考え方(書物等)から自己の考えを広げ深める

深い学び

各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、問題を発見・解決したり、自己の考え方を形成し表したり、思いに基づいて構想・創造したりする

7. カリキュラム・マネジメント～3つの側面～

9

各学校が設定する学校教育目標を実現するために、



教科等横断的な視点で教育内容を組織的に配列

調査や各種データ等に基づいたPDCAサイクルの確立

地域等の外部の資源も含めた人的・物的資源等の活用



子供たちの姿や地域の実状等を踏まえ、
教育課程（＝カリキュラム）を編成し、
それを実施・評価し改善していくこと